

インフルエンザ集団感染縮小に 向けた当院の取り組み

太田ネフロクリニック

看護部 ○藤田 綾 木村 吏香 小野寺 真美
鈴木 教正 二階堂 剛史 酒井 伸一郎

【はじめに】

毎年流行するインフルエンザに対して、当院での集団感染予防対策と対応について報告する。

【対象】

H24年10月1日～H25年2月末までの4ヶ月間

当院透析患者	全226名(男142名 女84名)
送迎利用者	145名
自家用車	81名

インフルエンザ陽性者16名

【方法①】

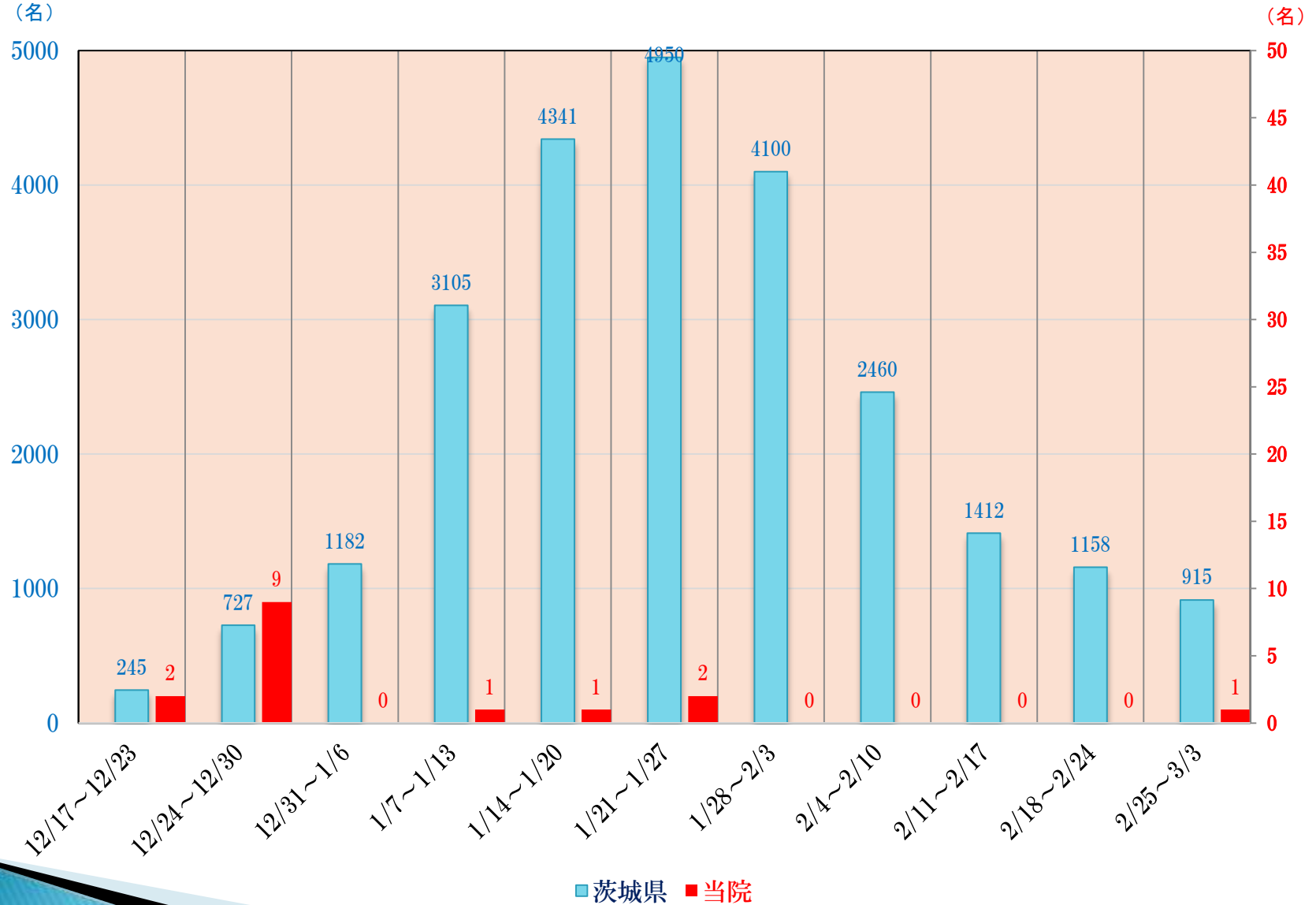
○自己通院者、送迎バス利用者ともに起床後に体温をチェックし、発熱者はクリニックに連絡。送迎利用者は、時差送迎とした。

- 11月より任意でインフルエンザ予防接種を施行
- ・全患者へマスクを1箱配布
 - ・個々へマスク着用を呼びかける
 - ・インフルエンザ罹患者がでた場合、非感染者も含めDr指示で抗インフルエンザ薬を投与

【方法②】

- 体温38度以上時インフルエンザ検査を実施
透析前陽性⇒個室隔離を行う
透析中陽性⇒スクリーン管理、次回より隔離
(37度台でもDrの指示があった場合検査を施行)
- 解熱後2日経過するまで咳嗽のある患者は完全個室管理とし、他の陽性者はコホート管理を継続する

【 茨城県と当院のインフルエンザ発生比較 】



【当院送迎車】

- ①各送迎バスに体温計を常備。
- ②自宅で体調不良時には、当院連絡。時差送迎とする。



【コホート管理】

※コホートとは、同じ外的条件におかれた集団の意味

透析前に陽性となった場合
⇒個室へ移動

透析中陽性となった場合
⇒当日はスクリーンを使用し、次回から個室管理



【結果①】

- 乗車前には体調不良の訴えもなかったが、来院時又は透析中症状が出現。
- インフルエンザ予防接種
全患者226名中222名接種(11/1～)
- 全患者の9割以上はマスクを着用していたが一部に不着用がみられた。

【結果②】

○透析前、非透析日にインフルエンザと確認された患者16名中6名。10名は透析中陽性と確認された。

○当院は小部屋化(8名1室)されているため個室管理は容易に行えた



陰性患者に協力を得る

コホート管理へ

【結果③④】

○陽性者は内服後2～4日で解熱された。

○陽性者のうち3名は同室で発生(12/22 1名・
12/27 2名)

○12/27に同じフロア内で7名が陽性となった。

【考察】

送迎時熱発者は別便にし、インフルエンザ検査陽性者を個室又はコホート管理としたことで、感染拡大を抑制できた。しかし、インフルエンザの感染経路は院内感染以外に外部からの感染も考えられる。そのため院内での感染予防だけでなく、スタッフ及び患者様への院内外での啓蒙が必要であり徹底していきたい。

茨城透析談話会 CO I 開示

筆頭発表者名： 藤田 綾

演題発表に関連し、開示すべきCO I 関係にある
企業などはありません。